

国内研修レポート

学年が上がり新しいリズムに体が慣れてきたと同時に、スタ学のメンバーにも新しい顔が7人入ってきた。今までの少人数での活動が一気に団体となり、団体運営の難しさを知った。新メンバーのほとんどが一年生ということもあり、大人数でミーティングを行ってもなかなか意見が出ないことが一番の悩みだった。飲み会などで会話を重ねるごとに少しずつ意見が出るようになってきたが、まだまだこれからも伸ばしていかなければならない課題の一つである。そんな新体制の中企画したのが仮設で行う「夏祭り」だった。今までのイベントは計画、準備、実施に至るまでほぼ釜石市社会福祉協議会の方々为主体で進めてくださっていたが、今回は計画から実施までできる限り学生が主体でやる形だったので、これまでとは違う新しい仕事が増え、3年生に余裕がなく、1年生はよくわからず振られた仕事をこなしていく形になってしまった。もっと主体的に進めていけると思っていた1年生もいたと思うが、今回はそのような進め方にできなかったのは力不足だったと感じた。また、リーダーや会計の仲間に仕事が偏ってしまい、うまく仕事を割り振ることができなかった点も反省すべき点だと感じた。次に活かしていきたい。様々な試行錯誤の中、最終的には夏祭りの飾りづくり、伝統芸能釜石よいさの練習、仮設住民の方と歌う歌の練習など、文化祭の準備のような雰囲気の中で楽しく準備を進めていくことができた。そして迎えた8月3日。私たちは準備した道具と心と体を携え岩手県釜石市の甲子仮設に向かった。朝早くから眠そうな顔で新幹線に乗り、新花巻までひとつ走りしたところで指導員の湯浅教授と合流。その後釜石線に乗り換え釜石を目指したが、トラブルにより遠野駅で下車することになってしまった。しかし、スタ学のこの活動は遠野プロジェクトから派生したこともあり、ノスタルジックな気持ちになっている仲間がちらほら見られた。もちろん私もノスタルジーな気持ちでいっぱいだった。そんなトラブルがあってもすぐに駆けつけてくださる釜石市社協さんには本当に感謝してもしきれないが今回もその優しさに甘えてしまった。1年生は初対面なので自己紹介やあいさつを済ませて車に乗り込み、上級生もしっかり挨拶をしてから出発した。社協の方の人柄もあり、全員緊張することなく釜石の雰囲気を楽しんでいたように感じた。そして、目的の甲子仮設に到着すると仮設の自治会の方々と顔合わせと挨拶、そして夏祭りの段取りの共有をしたのち、息をつく間もなく準備に取り掛かった。出し物としては射的、たこ焼き、チョコレートファウンテン、流しそうめんがあり、それぞれ配置につき忙しく働いていた。私はたこ焼きバイトの経験からたこ焼きが配属先に決まり、仲間と生地作りから焼くまで必死に頑張った。なんとか全部の出し物が開始時間に間に合い、無事リーダーの開催宣言によって夏祭りを開始することができた。結果からして、夏祭りは成功に終わったと感じる。必死で準備した出し物は皆好評を

いただき、住民の方と歌う歌は学生と住民の気持ちの共有につながり、女子が浴衣を着て踊る釜石よいさは男性陣を中心にとてつもない元気を与えたと思われる。楽しい時間はすぐに終わってしまうというのは本当で、準備にたくさんの時間を使ったはずなのに本番は乗ってきた新幹線のごとく時間が過ぎて行ってしまった。それを住民さんも感じていてくれたのなら、それで成功だったと言えるだろう。今回の訪問で一番うれしかったことは、住民の方々が私をしっかりと覚えていてくれたことだった。こうなってくるとやはりモチベーションは上がっていくし、愛着がわいてもっともっとこの活動が好きになっていくのが分かった。この感覚をぜひ新メンバーのみんなにも味わって欲しいし、身の回りの人に自慢していきたい。こうゆう面白さが地域での活動にはあるんだよということをもっとまわりと共有したい。現代福祉学部に入って本当によかったと感じる瞬間の一つだった。夏祭りの後は片づけをしてから BBQ、そして山奥での天然プラネタリウムの鑑賞会からの就寝という流れだった。翌日は創作農家こすもすさんで公園づくりのボランティアをしてから釜石市視察でプログラムの全工程が終了した。帰り道の電車では反省会を開き、今回の企画の反省点を教授と話して共有した。一番大きな反省点としては、まだまだ現地の方々に頼りすぎというところだった。どうしても社協のみなさんや仮設の自治会を頼るしかないところは存在するが、それにしても向こうの方々に負担をかけすぎてしまったことに悔しさを感じた。今年の冬にまたイベントを開催する予定なので、そこで成長を見せたいと感じる今日この頃である。様々な地域に出向き、いろんなことを感じ取れる、そんな現代福祉学部に感謝しながらこれからも活動を続けていきたい。

